

子どもたちが、5月に田植えをした、庄地区内の約50㎡の田んぼで、9月5日に稲刈りを体験しました。

当日は、前日に降った雨も上がり稲刈り日和となりました。

最初に稲刈りの方法について説明を受けた後、農業委員、農地利用最適化推進委員の指導のもと、保護者や先生にも手伝って頂きながら、一度に8人ほどが順番に田んぼに入り稲刈りを行いました。

最初は、雨でぬかるんだ田んぼに足を取られ、長靴が脱げたり、転倒したりと大変でしたが、慣れてくるとぬかるみの中を飛び回る子どももあり、楽しそうでした。稲束を稲木に架け、一時間程で作業は終了しました。子どもたちは、「おにぎり食べるのが楽しみ」と話していました。

最近では、農村でも自然や農業に接することが少なくなりました。このような体験を通じ、子どもたちに自然や農業に関心をもつ情操が育てばと思います。

(農業委員 大原 博幸)



ゆり組園児と保護者、関係者の皆さん



ばら組園児と保護者、関係者の皆さん

全国農業新聞

全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

*お申し込みは
農業委員会
事務局へ

週刊(毎週金曜日発行) 月700円(送料、消費税込)

編集後記

昭和を三十年、平成を三十年生きた農業者からこんなことを聞いた。「この勢いで令和も三十年頑張るぞお」と。

幼い頃は、昨日までできなかったことがすぐ出来るようになった。しかし、この年では、この前まで出来ていたことが、出来なくなってきた。体力には限界があるが、英知と知恵は衰えることはない。元氣なうちに若者、特に農業スクール生に伝授することが大切だと感じている。

次代を担う後継者として育てて貰いたい。豊岡・但馬地域の農業の将来に期待をした。

(編集委員長 西沢 泰裕)



農業委員会だより第44号は私たちが担当しました。

後列左から 永井辰正、北垣裕次、大原博幸
前列左から 原 清美、西沢泰裕、井谷勝彦